

アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第45号

平成25年9月30日 発行

## 特集1

インタビュー大城立裕 先生  
「琉球政府時代の公文書を語る」

## 特集2

常設展「沖縄県のあゆみ」開催！



琉球政府関係写真資料 / 行政府庁舎

資料コード：0000041423 写真番号：026797



琉球政府関係写真資料 / 中城公園遊園地

資料コード：0000041406 写真番号：003832



琉球政府関係写真資料 / 与那原テック

資料コード：0000041449 写真番号：054223



琉球政府関係写真資料 / 那覇警察署前の道路

資料コード：0000041423 写真番号：026609

# 特集

## インタビュー 大城立裕先生 『琉球政府時代の公文書を語る』

芥川賞作家で元琉球政府職員の大城立裕先生にインタビューすることができました。

琉球政府の『第一次民生五ヶ年計画』全文デジタルデータの公開に併せて、当時の経済振興政策に携わってきた元琉球政府職員の大城立裕先生から、貴重なお話を聞くことができました。

大城立裕先生は、作家としても偉大な業績をお持ちであるばかりでなく、琉球政府職員としても、商工局、経済企画室、企画統計局、計画局、通産局、公務員研修所、沖縄史料編集所、沖縄県立博物館でご活躍なされました。

インタビューでは、経済振興や琉球政府文書についてだけでなく、USCAR文書や公文書の効用、小説、調査研究方法、その他様々なトピックについてお話しいただきました。デジタル化時代のサービス向上についてのご助言などは、これからの公文書館の在り方を考える上で、大いに参考にできるでしょう。

### 経済振興政策について

『光源を求めて』（一九七七年、沖縄タイムス社刊）や『現地からの報告沖縄』（一九七〇年、月刊ペン社刊）などのご著書によると、先生は、琉球政府で経済振興の政策の業務に携わりになったとのことですが、『第一次民生五ヶ年計画』（全文デジタルデータ公開済）（一九六二年）以外にも『経済振興第一次五力年計画』（一九五六年）および『長期経済計画』（一九六一年）、『民生五ヶ年計画』（一九六一年）の作成などに関係なさっていますね。

ええ。私は、琉球政府時代の経済振興を、それら四つの資料（※）で俯瞰するべきだと考えています。

※『経済振興第一次五力年計画』

（資料コード：G800001326B）

『長期経済計画』

（資料コード：G800002576B）

『民生五ヶ年計画』

（資料コード：G800003351B）

『第一次民生五ヶ年計画』

（資料コード：0000020147）

—— 各々について、発行年の古い順から、お聞きます。まずは、『経済振興第一次五力年計画』についてですが、先生は、ご著書で、「基地収入をもその経済振興の資源として役立てることを考えなければならなかった」（『現地からの報告沖縄』p.28）と述べていらつしやいます。

そうです。この五ヶ年計画の目的は、米軍基地経済からの脱却が目的でした。しかし、そのための経済援助は米国に要求するのです。そういう矛盾を抱えていました。一九五五年当時は、まだ本土復帰は当分ないと考えられていたので、本土からの援助を当てにできず、米国の援助を使うという考えしか持ちえませんでした。



『経済振興第一次五力年計画』  
（資料コード：G80001326B）

——先生は、ご著書で「文章の検討と割付け、校正を担当させられた」（『ハーフタイム沖縄』一九九四年、ニライ社刊）とお書きになっていますね。何か工夫なされたことはありますか。

意図的に、「ですます調」にしました。広く一般に読んでもらおうと思ったのです。通例の横書きをやめて、縦書きにしたりもしました。そのほうが読みやすいかと。しかし、これらはすべて上層部の方針によるもので、私は編集技術にかかわったにすぎません。その基本方針そのものが、全琉球住民とともに、という善意の政策にかかわっています。意欲の強さを、いまでも憶えています。

——その次は、『長期経済計画』ですが、経済振興第二次五カ年計画とはならなかったのですね。

そうですね。本来なら、経済振興第一次五カ年計画から、経済振興第二次五カ年計画へと移行するはずなのですが、そうはならなかったのです。『経済振興第一次五カ年計画』は、琉球政府独自に作成されましたが、『長期経済計画』は、米国の介入があったため、米国と琉球との合同で作られることになったのです。米国政府が琉球政府の独自の動きをなにかにつけて牽制すると

いう背景がありました。『長期経済計画』は、「プライス法」(\*)に基づく米国財政援助の枠内での計画でした。琉球政府独自の予算を増やせる余裕はなかったため、米国の経済援助に縛られる形にならざるをえなかったのです。

※プライス法：一九五八年に成立した「琉球の経済社会の発展に関する法律」のこと。同法により、米国が最高限度六〇〇万ドルを沖縄の経済発展のために支出することが決まった。

——『長期経済計画』は、米琉合同経済財政諮問委員会により審議決定されたそうですが、琉球政府側の分析判断による計画は通りにくかったそうですね。USCAR(米国民政府)側は、「米国議会を通らないだろう」という殺し文句を言って、米国の判断を強く主張したとのことですが(『現地からの報告 沖縄P29-30)……。

ええ。琉球政府側は、米国にお金を出させようと必死だったわけですが、それもなかなか思うようにはいかなかったのです。それゆえに、欲求不満が蓄積されていくことになりました。

——それが、『第一次民生五ヶ年計画』にながっていく……。

その前に、『民生五ヶ年計画』を策定し、発表しました。一九六一年一月ケネディ大統領の就任後です。これは、ケイセン調査団(\*)の来沖に合わせて作ったものです。しかし、この計画書は、九〇ページほどで、内容的には不十分でした。

※カール・ケイセン国家安全保障問題担当大統領特別補佐官率いる「ケイセン調査団」一九六一年一〇月に来沖し沖縄の状況を調査した。沖縄自民党は、本土の自民党と連携し「米国と日本の協力により琉球の経済的発展・福祉向上」を同調査団に要請した。同調査団の調査に基づく「ケイセン報告書」はケネディ新政策に取り入れられた。



『長期経済計画』  
(資料コード：G80002576B)

——琉球政府の職員はケイセン調査団と何か話をしましたか。

上層部のことはよくわかりません。私の知る限りでは、ケイセン調査団は琉球政府とは話をしなかったように思います。USCARの職員とは話をしたと思いますが。

——その後、一九六二年に『第一次民生五ヶ年計画』が作成されましたが、『民生五ヶ年計画』の九〇ページに対して、こちらは三〇〇ページ以上となっていますね。

飢えた子供が要求したいだけするかのよう、予算を積み上げていったのです。その思いは、象徴的に三〇〇ページという厚みに表れています。合計四〇〇万ドルの要求となりました。なにせ、各局の担当者からあがってくる要求をすべて積み上げていったのです。これは、本来の行政の常識でいえば、ありえない話です。通常の予算編成の際には、予算の上限が決まっています。主計課が削ぎ落としの作業を行います。それがなかったのです。欲求不満を吐き出すかのように援助要求をしたのです。インフレーションなんかも全然考慮に入れないでひたすら数字を積みました。従来

の米琉合同による『長期経済計画』とは無関係に、琉球政府独自にこの計画を作成しました。

——この『第一次民生五ヶ年計画』は、本土からの調査団に渡すために作成されたそうですね。この調査団は、一九六二年八月の「ケネディ新政策」の後、日本政府からの援助が米国の納得の上で本格化してから、派遣されてきた（『現地からの報告 沖縄』p.31）……。

ですから、日本政府からの援助を引き出すチャンスでした。しかし、残念なことに、キャラウェイ高等弁務官から待ったがかかったのです（※）。

※「調査団を迎え、堂々と計画書を出そうという段階になった。そこへキャラウェイさんから待ったがかかった。民政府の承認を得ない計画書を日本政府へ出すことはまかりならぬ、ときたのである」（『光源を求めて』p.131）。

——「飢えた子供が要求したいだけするかのように」とのことですが、何らかの目標はなかったのでしょうか？ どの水準まで引き上げるべきかという話はなかったのでしょうか？

ありました。まず、せめて本土の類似県並みにもつていこうという話になりました。次に、何についての類似かという話になりました。面積の類似か、人口の類似かと、いろいろと検討しましたが、最終的に「県民一人当たりの所得の類似」に落ち着いたように記憶しています。



『民生五ヶ年計画』  
(資料コード：G80003351B)

——どの都道府県が目標となりましたか。

いろいろの県を比較しましたが、最大公約数的に落ち着いたのは、鳥取県です。余談ですが、私は出張で鳥取県に行つて、驚きました。ヤマトの人は沖縄のことを知らないというのが、我々沖縄県民にとつての常識だったのですが、出張先で会つた方は「子供のころから沖縄県のことを知つていた」と言つたからです。その方いわく「幼い頃から大人にこう教えられてきた。『鳥取県は貧乏な県だが、もうひとつ貧乏な県がある。沖縄県だ』と」。変な意味で同志愛を感じましたよ。

——なるほど、その目標もあつたので、要求額は増えていったのですね。それにしても、二〇〇ページ以上というボリュームの仕事をごこなすのはたいへんではなかったですか。

毎日残業という生活になりました。早くて午後一〇時、遅くて午前一時に退庁するという日が半年ちかく続きました。実は、『カクテル・パーティー』（芥川賞受賞作品）を執筆しはじめたのは、『第一次民生五ヶ年計画』の仕事が始まる一、二週間前でした。せっかく物語を書き出したところに、この大仕事です。当分残業する生活が続く

と気づき、困りました。そこで、私は、どれだけ遅く帰つてきても、原稿用紙一枚か二枚は必ず書く決心し、実行しました。結局、五ヶ月くらいかかりましたが、『カクテル・パーティー』は完成しました。

——『第一次民生五ヶ年計画』と名作『カクテル・パーティー』が同時並行で作られたというのは驚きです。ところで、ご著書では、「キャラウェイさんから待ったがかつた。（略）下々はこの事態を予感していた。事務レベル同士では、たえず連絡をとりあつてゐるからである。当時の民政府（USCAR）計画局には座喜味彪好（たけよし）、仲宗根勇さんなどがいた」（『光源を求めて』p.13）とありますが、USCAR職員との交流はよくあつたのですか？

座喜味彪好（たけよし）さんや仲宗根勇さんがいた頃には、USCAR職員と話をしましたが、そのほかは特になかつたです。基本的に交流はなかつたですね。USCAR職員は、米国のポリシーを持ち、琉球政府を下に見ていたのではないでしょう。また、USCARを批判するUSCAR職員も見なかつたですね。後ろにアメリカを背負つてゐる人たちという印象があります。

インタビューの続きは当館ウェブサイトでご覧いただけます。



『第一次民生五ヶ年計画』  
(資料コード：0000020147)

この資料は当館ウェブサイトから  
ダウンロードできます。

#### ダウンロード URL

<http://www.archives.pref.okinawa.jp/collection/2013/03/post-457.html>

## 特集 2 常設展「沖縄県のあゆみ」開催中！

6月22日(土)から展示室にて平成25年度 常設展「沖縄県のあゆみ」を開催しています。今回は1879(明治12)年の廃藩置県による沖縄県の発足から日本復帰後の沖縄のあゆみまでを7つのエリアに区切り、年表をまじえて当館収蔵資料を展示しています。Archives45号ではその一部をご紹介します。



展示室入り口



展示室の様子

### 「琉球王国の終えん ―沖縄県の誕生―」



沖縄県日誌16 自11月至12月 番外第30号  
1882(明治15)年  
第2代沖縄県令の上杉茂憲が1880(明治13)年から1883(明治16)年にかけて綴った行政記録。  
資料コード:0000044519



知事事務引継書  
1935(昭和10)年  
第22代沖縄県知事井野次郎から第23代蔵重久に宛てた事務引継書  
資料コード:0000019431

### 沖縄戦と〈アメリカ世〉のはじまり

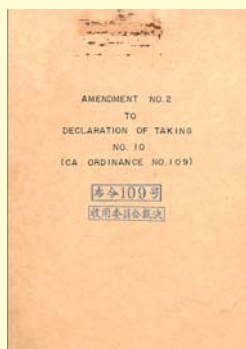


米国政府撮影写真  
1945年(昭和20)4月1日  
日本軍が陣取る沖縄の海岸壁に向かって進む装軌式水陸両用車  
資料コード:0000070731 写真番号:106-10-2



『Military Government Activities in the Ryukyus』  
1947(昭和22)年  
廃墟となった学校で遊戯をする子どもたち  
資料コード:0000025596

## アメリカによる統治体制の強化



収用宣告書 布令109号 宜野湾村収用委員会裁決  
1956(昭和31)年12月  
琉球政府軍用地関係事務所  
資料コード:R00047799B



外資導入免許関係書類  
1956(昭和31)年  
沖縄バヤリース・カリフォルニア・オレンジ社  
資料コード:R00066676B

## 復帰運動の高まり



会議録  
1966(昭和41)年  
沖縄県祖國復帰協議会  
資料コード:R10000372B



宮城悦二郎写真 15  
1962(昭和37)年 4月29日  
祖国復帰県民総決起大会  
資料コード:0000096826  
写真番号:15-097

## 復帰への道



琉球政府写真資料143  
1972(昭和47)年5月  
通貨切替用の円 沖縄入り 輸送トラックの列  
資料コード:0000041435  
写真番号:040209

## 新生沖縄県



知事事務引継書  
1976(昭和51)年  
屋良朝苗知事から第2代の平良  
幸市知事への知事事務引継書  
資料コード:P00012764B

「沖縄県のあゆみ」は12月1日(日)までの開催です。入場無料でどなたでもご覧になれます。また、お一人でもご希望があれば展示解説いたします(土日除く)。当館2階閲覧室の職員にお気軽にお声かけください。

# アーカイブズフラッシュ

## 平成二十五年度上映会 「記録映像に見る沖縄戦」

六月二十二日、慰霊の日を前に当館が所蔵する沖縄戦に関連した映像資料を上映し、多くの皆様に見ていただきました。

### 【上映タイトル】

「ドキュメント沖縄戦」

資料コード：T000001255B

「Battle of

Okinawa No.2」

資料コード：0000086911

今回上映した映画は閲覧室のミニシアターでもご覧いただけます。



## カラーコピー機のご案内

参考資料室に設置のコインコピー機がカラー複写も可能になりました。参考資料の複写にご利用ください。



## セルフ複写のご案内

当館ではカメラ、イメージスキャナ、パソコン等を閲覧室に持ち込み、利用者自身で公文書等を複写することが可能です。セルフ複写の場合、料金は無料ですのでご利用ください。

(※ただし、資料に負担をかける複写機器や一部の公文書では利用できません。持ち込む際にはカウンターで許可を得てください。)



## 平成25年度 移動展のご案内

沖縄県公文書館では平成25年度の移動展を開催します。

### ・宜野湾市立博物館

平成25年9月11日(水)  
～9月29日(日)

### ・伊江村

平成25年11月 開催予定

お楽しみに!



## 利用案内

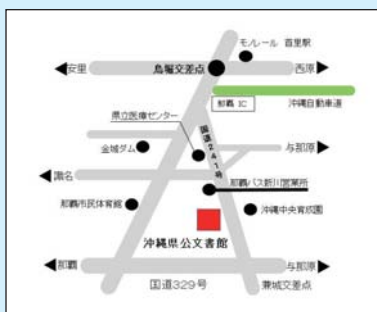
入館 入館無料

会館時間 午前9時から午後5時まで  
(閲覧・複写申請は午後4時30分まで)

休館日 月曜日、国民の祝日である休日、慰霊の日、年末年始12月29日から1月3日  
\*土・日は国民の祝日及び慰霊の日を除いて開館しています。

- ・お探しの資料がありましたらお気軽に閲覧室へお尋ね下さい。電話やFAXでのお問い合わせもどうぞ。
- ・参考資料室の資料や空中写真システムは閲覧申請なしでご利用いただけます。
- ・書庫の資料を閲覧する際は、「利用証」の作成が必要となります。利用証は、現住所の確認できる身分証明書(運転免許証や保険証など)をご提示いただければすぐ作成できます。利用証は、発行から1年間有効です。
- ・閲覧室での筆記用具は鉛筆をご使用ください。
- ・鞆や袋類はロッカーにお預けください。(百円硬貨が必要ですが、使用後は返金されます)
- ・資料の館外貸し出しは原則として行っておりません。閲覧および複写でご利用下さい。複写は実費が必要です。

## 交通案内



### バスのご案内

- ・那覇バス線 1・2・3・5・14・15・16番線  
新川営業所下車1分
- ・東洋バス線 91番線  
新川バス停下車1分